

2月4日(火)、こくみん共済coop千葉推進本部会議室で「被災地シンポジウム2019」を開催し、9団体、28名が参加しました。

当日のプログラム

10:00～開会挨拶

10:05～協賛団体代表挨拶

10:10～講演

『東日本・津波・原発事故大震災からまもなく9年』

11:40～講演

『JAふくしま未来の農産物の安全性確保対策の取り組みについて』

12:30 閉会



司会

上山 専務

理事



開会挨拶

千葉県生活協同組合連合会

首藤会長理事

震災、原発事故から来年で10年を迎えますが、報道や情報が少なくなり、人々の関心も低下する中で、風化が進んでいます。風化が進むこと、原発に頼らない社会を子どもたちに残していくために本日のシンポジウムで受け取った言葉を一緒に受け止めて、心を寄せ合って、できることを考えて進めていきたいと思ひます。



協賛団体代表挨拶

千葉県農業協同組合中央会

小茂田専務理事

この間、様々な場面で被災地での大変さを聴いてきましたが、千葉県でも昨年の台風被害を受けて改めて被災地の苦労を実感しました。JAグループとして災害支援をする中で農林水産業の継続に危機感を感じていますが、改めて農林水産業の重要性を伝え、生産者と消費者が一体となって産業を守っていききたいと思ひます。



講演『東日本・津波・原発事故大震災からまもなく9年』

講師 福島県生活協同組合連合会 佐藤一夫様

福島県生活協同組合連合会の佐藤専務より、福島県内空間放射線量の推移、避難の状況、子どもの避難の状況と子どもの数の推移、帰還の問題について説明がありました。このままの状況が続けば「ふるさと喪失」という問題が目の前の現実となっています。また、震災関連死、健康被害、甲状腺検査、除染廃棄物の状況、など現在福島県が抱えている課題について説明がありました。最後に福島の子ども保養プロジェクトについて報告があり、支援を受ける形の復興ではなく各団体等と協力しながら持続可能な復興システムを構築することが重要と考えます。

(文責：事務局)



講演『JAふくしま未来の農産物の安全性確保対策の取り組みについて』

講師 ふくしま未来農業協同組合 佐藤博元様

ふくしま未来農業協同組合の佐藤常務よりJAふくしま未来の概要、東日本大震災からの農産物再開までの経過と取り組みについて説明がありました。安全性確保の取り組みとしては水稲放射性物質吸収抑制対策、果樹放射性物質低減対策、放射性物質モニタリング検査、残留農薬自主分析を行ない安全性を確認しました。また、生産履歴記帳の取り組みとしてISO9001、VGAPにも取り組んでいます。(文責：事務局)



参加者アンケートより

1. 講演『福島の復興と再生に向けて』についての意見・感想

- ・9年も経っているのにこの状況、、本当に信じられません。「避難してもしなくても嫌味を言われる」ということに非常に心が痛みます。福島の現状が今日のお話でよく分かりました。私にも何かできることはないか、、募金はこれからも続けます。応援続けます。

2. 講演『被災地の現状と復興の状況』についての意見・感想

- ・原発事故さえなければ莫大な除染作業に時間と労力を費やすこともしなくてもよかったのにと携わった方々の憤りとご苦労を感じました。除染にここまで努力されていることは知りませんでした。また安心して出荷、流通できるように検査等もされていることを聞き、知って食べることで応援続けたいと思います。